か藤村法を加えるべきであろう。

またわれわれは、沪紙血中にガラクトースあるいはガラクトース －1－ 燐酸の軽度増加のあるときには、国立精神衛生研究所小松博士に依頼し、ガラクトース －1－ 燐酸ウリジルトランスフェラーゼのアイソザイムの判定を行っており、今年度に１例のバリアントを発見した。

2）アミノ酸代謝異常スクリーニング技術の改善

マススクリーニングの普及とともに、沪紙血中のアミノ酸の正確な定量が行なわれる様になって来た。昨年度われわれは、３㎜ディスク中の金アミノ酸の定量法を確立したが、その後の研究により、溶血により急速にアルギニンが減少し、グルタミン酸、メチオニンは増加することを発見した。これらのアミノ酸の定量のためには、沪紙血は不適当と思われる。尚アミノ酸代謝異常に関しては、従来のアミノ酸測定と共に、アミンの定量、安定同位元素導入によるアミノ酸代謝率の測定が不可決になって来たので、目下これらについての研究を継続している。

産婦人科側から見たガスリー法等の実施状況と問題点

社団法人　日本母性保護医協会　森　山　　豊
五味渕　政　人
皆　川　　進
黒　島　淳　子
住　吉　好　雄

日本母性保護医師会は、昭和５２年４月から昭和５４年３月までの２年間におけるガスリー法等の実施状況、患者数などにつき、全国４７支部からの調査の集計を行った。

1. 検査実施件数（受診者数）

昭和５２年４月から１２月まで４３０,４２４人、昭和５３年１月から１２月まで 1,149,542人、昭和５４年１月から３月まで１８８,７４７人、合計1,７６８,７１３人の新生児が実施していた。

2. 検査実施率

昭和５３年１月から１２月までの各支部の新生児出生数と検査実施数から実施率を求めると実施率５０％台の支部は６支部、出生数を上まわる実施率を示す支部は４支部であり、全国平均７９.４％であった。

3. 患 者 数

各支部から集計した患児数は合計２６２人であった。（表参照）

4. 地区別発生頻度

発生頻度の高いヒスチジン血症は、2,500～5,000人に1人の地区は新潟、広島、山口、香川、高知、福岡、熊本支部であった。5,001～10,000人に1人の地区は福島、群馬、富山、大阪、奈良、岡山、愛媛の7支部であり、その他の地区は10,001人以上に1人の頻度であった。フェニールケトン尿症は10,000人以下に1人は奈良、鳥取支部。10,001～20,000人に1人は富山、福井支部。20,001～30,000人に1人は大阪、長崎、熊本支部であった。

今後さらに産科医、小児科医、検査センター、行政の綿密な連繋のもとに種々の問題点の解決が望まれる。

患　　者　　数

（母数：47支部集計）

病　　名	昭和52年 4～12月	昭和53年 1～12月	昭和54年 1～3月	昭和52.4～54.3
フェニールケトン尿症	7	20	5	32
メープルシロップ尿症	0	4	0	4
ヒスチジン血症	20	122	44	186
ホモシスチン尿症	0	6	3	9
ガラクトース血症	1	7	3	11
高メチオニン血症	5	5	0	10
チロジン血症	0	2	0	2
クレチン症	2	5	0	7
高フェニールアラニン血症	0	1	0	1
計	35	172	55	262

ヒスチジン血症の診断基準に関する検討

慈恵医大小児科　青木菊磨
伊藤文之

ヒスチジン血症はわが国では比較的高頻度に発見されているが、治療の必要性についての問題が残されている。これに関しては、マススクリーニングで発見された症例について正確かつ容易な診断方法を確立し、またそれぞれの症例について詳細な生化学的分析を行ない、本症の異質性を検討

検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

日本母性保護医師会は、昭和52年4月から昭和54年3月までの2年間におけるガスリー法等の実施状況、患者数などにつき、全国47支部からの調査の集計を行った。